

平成27年度第3四半期報告の概況について

三井生命保険株式会社（代表取締役社長 有末 真哉）の平成27年度第3四半期報告の概況について、以下のとおりお知らせいたします。なお、数値の詳細につきましては、本日付ニュースリリース「平成27年度第3四半期報告」をご覧くださいませよう、お願い申し上げます。

【契約の状況（個人保険および個人年金保険）】

- ◇ 新契約年換算保険料は、主力の総合保障型商品や医療保険など個人保険の販売は好調に推移したものの、個人年金保険の販売が減少したことから、前年同期比**2.7%減の241億円**となりました。
- ◇ 解約・失効率（年換算保険料ベース）は、金融環境の好転に伴い変額年金保険の解約が増加したこと等により、前年同期から**0.13ポイント増加し、3.46%**となりました。
- ◇ 保有契約年換算保険料は、解約・失効・満期・年金支払等による減少が新契約を上回っていることから、前年度末比**1.9%減の5,023億円**となりました。なお、中期経営計画で反転を経営目標に掲げている定額保険の保有契約年換算保険料は、前年度末比**0.5%減の4,176億円**となっております。

【主要収支の状況】

- ◇ 保険料等収入は、前年同期とほぼ同水準の**4,028億円**となりました。
- ◇ 基礎利益は、前年同期は株価が大幅に上昇した一方、当期は概ね横ばいで推移したため、変額年金保険等の最低保証に係る責任準備金が戻入から繰入に転じたことを主因として、前年同期比**44.2%減の241億円**となりました（最低保証に係る要因を除いた基礎利益は、同**6.4%減の249億円**）。
- ◇ 経常利益は、前年同期比**13.6%減の311億円**、四半期純利益は、同**13.9%増の183億円**となりました。

【健全性の状況】

- ◇ ソルベンシー・マージン比率は、内部留保の積み増し（＝ソルベンシー・マージン総額の増加）、および追加責任準備金の積立による予定利率リスク相当額の減少（＝リスクの合計額の減少）等により、前年度末から**8.2ポイント上昇し、820.6%**となりました。
- ◇ 実質純資産額は、内部留保の積み増し、および有価証券の含み益の増加等により、前年度末から**302億円増加し、1兆220億円**となりました。

1. 契約の状況〔個人保険＋個人年金保険〕

(単位:億円、%)

区 分	平成26年度 第3四半期累計期間	平成27年度 第3四半期累計期間	前年同期比 増減率
新契約年換算保険料	248	241	▲ 2.7

(単位:%)

区 分	平成26年度 第3四半期累計期間	平成27年度 第3四半期累計期間	前年同期差
解約・失効率〔年換算保険料ベース〕	3.33	3.46	+ 0.13 ポイント

(単位:億円、%)

区 分	平成26年度末	平成27年度 第3四半期会計期間末	前年度末比 増減率
保有契約年換算保険料	5,119	5,023	▲ 1.9
うち 保有契約年換算保険料(定額保険)	4,196	4,176	▲ 0.5

(注)「保有契約年換算保険料(定額保険)」は、年金開始後契約を除いています。

2. 主要収支の状況

(単位:億円、%)

区 分	平成26年度 第3四半期累計期間	平成27年度 第3四半期累計期間	前年同期比 増減率
基礎収益	5,627	6,332	+ 12.5
うち 保険料等収入	4,058	4,028	▲ 0.7
うち 利息及び配当金等収入	883	867	▲ 1.8
基礎費用	5,193	6,090	+ 17.3
うち 保険金等支払金	4,081	5,036	+ 23.4
うち 事業費	715	698	▲ 2.4
基礎利益 ①	433	241	▲ 44.2
逆ざや額	▲ 388	▲ 362	▲ 6.9
危険差益	818	602	▲ 26.4
うち 最低保証に係る要因 (注) ②	167	▲ 7	—
費差損益	3	1	▲ 61.7
キャピタル損益	▲ 86	97	—
臨時損益	13	▲ 28	—
経常利益	359	311	▲ 13.6
特別損益	▲ 69	55	—
契約者配当準備金繰入額	121	123	+ 1.6
四半期純利益	161	183	+ 13.9
基礎利益(最低保証に係る要因を除く) ①-②	266	249	▲ 6.4

(注)「最低保証に係る要因」は、変額年金保険等における次の金額の合計額です。

- ・最低保証に係る一般勘定の責任準備金の繰入・戻入額
(平成26年度第3四半期累計期間: 121億円、平成27年度第3四半期累計期間: ▲29億円)
- ・最低保証に係る保険料収入から、年金開始等の際に最低保証のために繰り補した額を控除した額
(平成26年度第3四半期累計期間: 46億円、平成27年度第3四半期累計期間: 22億円)

3. 健全性の状況

(単位:億円、%)

区 分	平成26年度末	平成27年度 第3四半期会計期間末	前年度末差
ソルベンシー・マージン比率	812.4	820.6	+ 8.2 ポイント
実質純資産額	9,918	10,220	+ 302
有価証券の含み損益(一般勘定)	5,902	5,990	+ 88

以上